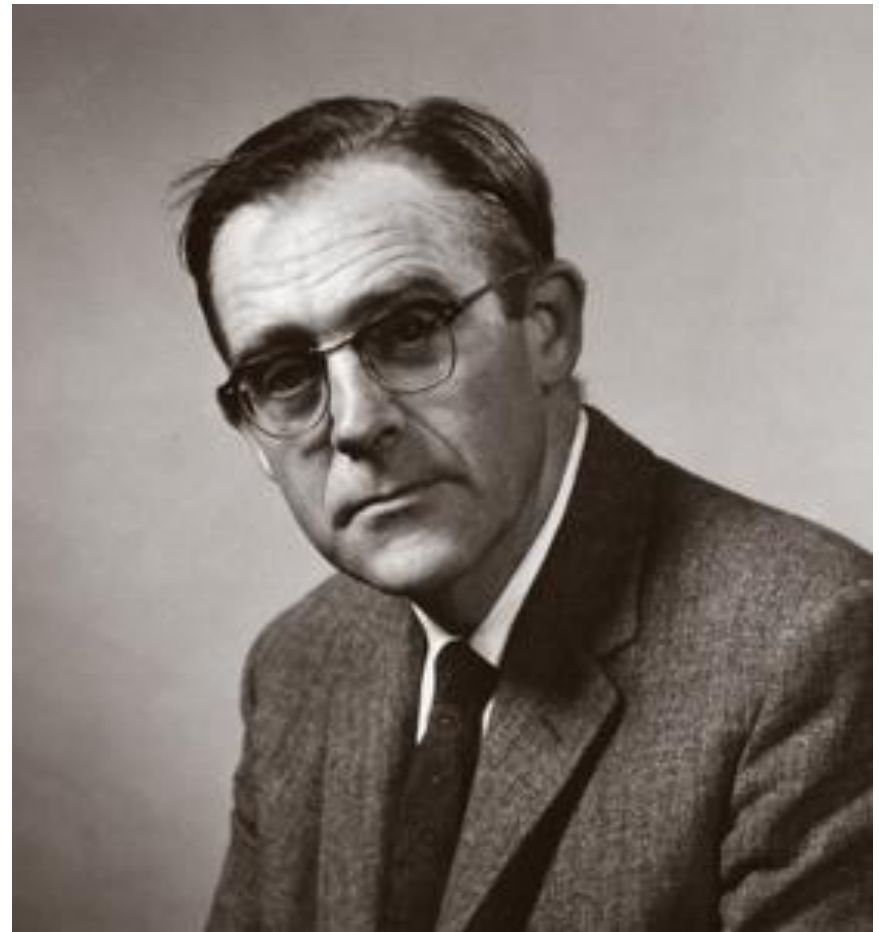
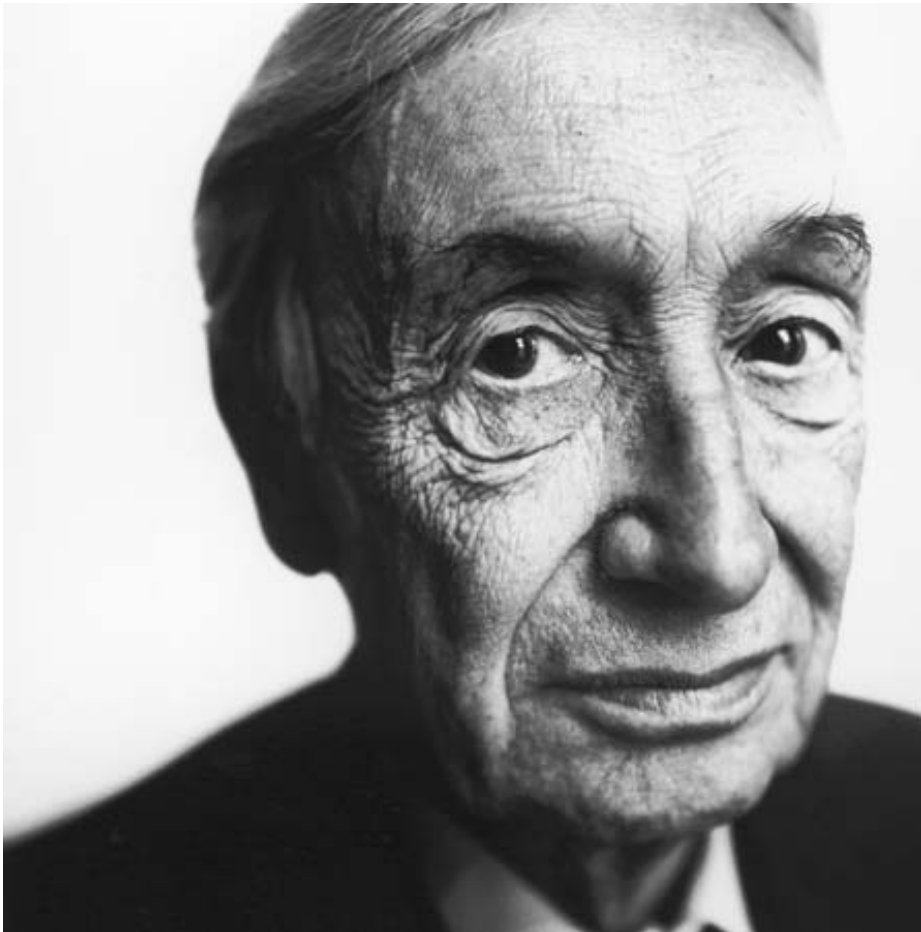


情動主義

20世紀のA.J.エアと チャールズ・ステューブソン



エイヤーは、当時77歳だったが、パーティーで、当時トップモデルのナオミ・キャンベルにネチネチと性的な嫌がらせをしているマイク・タイソンに出会った。エイヤーが、タイソンにそれを止めるように言った所、タイソンは、「俺に説教を垂れようというお前は何者だ？俺はヘビー級の世界チャンピオンだぞ」と脅した。エイヤーは「私は、前ウェイクハム論理学教授だ。我々は、2人ともそれぞれの分野の世界的著名人なんだぞ。私は、こういうことについては話の分かる人間らしく語り合った方がいいと思うんだがね」と答えた。エイヤーとタイソンはお喋りを始め、ナオミ・キャンベルはその間にその場を離れた。



情動主義

- 道徳判断は感情や態度を表出し、同時に聞き手に影響を与えようとする行為

万歳セオリー

- 「泥棒は不正だ」のような発言は、「泥棒！」という感嘆文や、「泥棒はやめろ！」という命令文に近い
- 「ばんざーい！」や「こらーっ！」に近い
- なにかの性質を記述しているのではない
- むしろ態度を表出 express している

エイヤー

「命題のなかに倫理的記号（「よい」「悪い」など）が存在していても、それは命題の事実的内容に対して何もつけ加えはしない。・・・もし私が誰かに向かって「あの金を盗むなんて君のしたことはまちがっている」と言うならば、単に「君はあの金を盗んだ」と言う場合と比べてそれ以上のことは何も述べていないのである。この行為はまちがっているとつけ加えることによって、わたしは単にそれに対する私の道徳的否定・非難を表明しているにすぎないのである。」

スティーブンソン

ひとびとはお互いにほめあって、ある種の傾向を鼓舞する。また、ある時はお互いのあいだで非難しあい、ある種の傾向を阻止する。有力な人物が（かれらの傾向により）命令を発する。すると比較的弱い人たちは、たとえ命令をきかないとあとがおそろしいというようなことを問題外にしても、微妙な本能的理由から、その命令にしたがわざるを得ない。作家や講演者の影響はさらに大きい。このように社会的影響は、驚くほど大部分、暴力や物質的報酬とはなんら関係なき手段によって行なわれるのである。そのさい、倫理的名辞（言葉）がこうした影響を促進する。

非難と称賛

- 非難や称賛は人々を動かす
- 人々から非難されるのは不快であるため当人は行動を抑制し、称賛は快適であるため行動が促進される

情動主義

- 道徳判断は感情や態度を表出し、同時に聞き手に影響を与えようとする行為。

万歳セオリー

- 「泥棒は不正だ」のような発言は、「泥棒！」という感嘆文や、「泥棒はやめろ！」という命令文に近い。
- 「ばんざーい！」や「こらーっ！」に近い。なにかの性質を記述しているのではない。

「不倫」を評価的な意味を 含めて使う場合

- スティーブンソンは多くの道德判断が、記述の意味と評価的意味に分けることができると考える
- 「君がしていることは不倫だ」 = 「君は婚外セックスをしている」 + 「君は非難されるべきだ／それをやめろ！」

非難と称賛

- 非難や称賛は人々を動かす。人々から非難されるのは不快であるため当人は行動を抑制し、称賛は快適であるため行動が促進される。

情動主義の魅力

- 道徳判断の多様性の説明。
- 道徳的対立は態度の対立。事実の問題ではなく態度の問題→ 態度が一致するまで続く。
- 道徳判断と態度や感情の結びつきはあきらか。
- 道徳的に非難されることの不快さの説明。動かされようとしている。

問題点

- 道徳判断は態度の表出であり、他者を動かそうとするものである、という考えかたの難点は？

道徳的成長

- 「道徳的誤謬」や「道徳的成長」がありえるようにおもわれる。
- 「あのときの私はまちがっていた」
- 単なる態度の表明ならまちがうことはありえない。

単なる宣伝との違い

- 他人の行動や態度を変更する手段は、道徳的要求の他にも、宣伝、洗脳、脅迫、歌、テロなどさまざまありえる
- 道徳はこのような単なる命令や脅迫やプロパガンダとはなにかが違う。道徳に特有のものは何か

「強制されている」 という感覚

- 道徳判断は単なる「自分の好み」ではなく、外から押しつけられているように感じられる
- 「万引したい」「不倫したい」と思っているにもかかわらず、「万引／不倫してはいけない」という（自分の外側からの）要請が感じられる

「まっとうな理由」の 必要性

- 主観主義（情動主義）は、道德判断における「理由」の重要性を見逃している
- 理由を提示できない道德判断は、他の道德的直感をもっている人には説得力がない
- 誰かの道德的意見には、いつも「なぜあなたはそう判断するのか」と理由をもとめることができる

一貫性

- 好みや感情は時間によって変化する
 - それで問題がない、気分も好みも変化する
- しかし道徳的な態度を刻々と変化させるのは奇妙
- 少なくとも、自分の都合で意見を変える人をわれわれは非難する（「ブーメランだ！」）し、自分でも不都合を感じる

特別扱いの禁止

- われわれは自分だけは特別扱いする傾向がある
- しかし、道徳判断において自分を特別扱いにするのは非難される
- 「なぜ君だけ特別なの？」

結論

- おそらく、態度の表明と他者への影響の他に、 $+\alpha$ の要素がある
- 「自分を特別あつかいしない」という制約
- 「あなたのしてほしいように他の人にしなさい」にある自分と他人を同等に扱えという要求が重要

結論

- 道德には道德のルールがある
 - 他者の利益や幸福への配慮
 - 平等な配慮
 - 普遍性

推薦図書

- レイチェルズ、『現実を見つめる道徳哲学』、晃洋書房、2003
- ブラックバーン、『ビーイング・グッド』、晃洋書房、2003
- バッジーニ&フォルス、『倫理学の道具箱』、共立出版、2012